

北上山地民俗資料館 企画展講演会

# 教科書に 登場する民具 ～有形民俗資料の活用～

## 講師 名久井文明氏

物質文化研究所一芦舎代表

元岩手大学人文社会科学部博物館学非常勤講師

※8月9日に予定していた講演会を延期して開催します

# 入場無料

平成29年10月31日(火)  
午後1時30分～3時30分

会場:宮古市川井  
生涯学習センター  
(北上山地民俗資料館となり)

講演会ご来場の皆様の  
民俗資料館入館料も無料です

### 会場までのアクセス

- ・宮古市内から車で約40分
- ・盛岡市内から車で約80分(道の駅やまびこ館から約20分)
- ・県北バス106急行「川井」バス停から徒歩2分
- ・JR山田線陸中川井駅から徒歩5分

川井生涯学習センター  
川井総合事務所

●北上山地民俗資料館

■道の駅やまびこ館

国道106号線

←盛岡方面

〒

宮古方面→

■JR陸中川井駅



## 第20回企画展 開催中

### 「昔はどんな道具だったの？」

～教科書に登場する有形民俗資料～

【会期】～平成30年3月31日(土)まで延長

【問い合わせ電話番号】TEL0193-76-2167

(北上山地民俗資料館)

【開館時間】午前9時～午後5時

【休館日】月曜日(月曜日が祝日の場合はそのもっとも近い平日)

【企画展会場】北上山地民俗資料館2階企画展示室

【入館料】一般200円(100円)/大学生150円(80円)/  
高校生以下無料 ( )内は10人以上の団体料金

# 宮古市北上山地民俗資料館

〒028-2302 岩手県宮古市川井2-187-1 TEL0193-76-2167 <http://kitakamisanchi.city.miyako.iwate.jp/>

## 講演会のご案内

宮古市北上山地民俗資料館は、昭和30年代頃（今から60年くらい前）まで使われていた、生活や仕事の道具を集めて展示しています。昭和30年代といえば、炭や薪といった燃料が次第に電気やガスに替わり、「台所改善」のもとに「炉」が取り除かれて「ストーブ」や「かまど」が設置され、テレビや電話が各家庭に普及するなど、人々の暮らしが急速に変化した時代です。これらのことは地域の年表から分かりますが、当館では時代の変化とともに使われなくなってしまった昔の道具を数多く保存しています。そうした昔の道具を見たとき、年配の方は昔を思い出す懐かしいものと感じるかもしれません。若い世代の人たちは見慣れない、古めかしい道具と感じるかもしれません。子どもたちにとっては、見たこともなければいったい何に使ったのか想像もできない道具ばかりなのではないでしょうか。

昔の道具は博物館で展示されているだけでなく、学校の教科書にも登場します。例えば小学校3、4年生の社会科では「昔の暮らし」や「昔の道具」について学びます。小学校6年生の社会科では絵図に描かれた江戸時代の農具が出てきます。各学年の国語の教科書には、物語や昔話の中に昔の道具が登場します。また、「どっどこ」や「がんだ」は「てこ」の力を駆使して丸太を動かす山仕事の道具です。つり合いをとって「炭俵」などの重さを量る「さお量り」とともに、小学校6年生の理科で学ぶ「てこ」のはたらきに関連があります。

このたび、教科書に登場するさまざまな昔の道具を紹介しながら、民具や有形民俗資料と呼ばれる昔の道具をどのように活用していったらよいのかを考える講演会を開催します。これは博物館だけでなく、学校授業にもお役立ていただくことができるのではないかと考えました。夏休みの期間中に、是非ご参加いただきますようご案内いたします。

## 宮古市北上山地民俗資料館について

宮古市北上山地民俗資料館は国指定重要有形民俗文化財「北上山地川井村の山村生産用具コレクション」1,345点を所蔵する博物館です。館内常設展では昔の仕事や暮らしの道具、早池峰山信仰に関わる用具など約3,000点を展示しています。このほか、映像展示室ではこれまで行ってきた調査から昔の道具についての使い方の再現記録の様子をご覧いただくことができます。また、技術の伝承をテーマにした小物作りの体験も行っています。詳しくは、当館ホームページをご覧ください。

北上山地民俗資料館ホームページ <http://kitakamisanchi.city.miyako.iwate.jp/>